

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長  
(公印省略)

### 病害虫発生予察特殊報について

平成20年度病害虫発生予察特殊報第2号を発表したので送付します。

---

#### 平成20年度病害虫発生予察特殊報第2号

- 1 病 害 名 : キュウリ黄化えそ病
- 2 病原ウイルス : メロン黄化えそウイルス *Melon yellow spot virus* : MYSV
- 3 対象作物名 : キュウリ
- 4 発生地域 : 沖縄県南城市、南風原町

#### 5 発生確認の経緯

平成20年11月上旬沖縄県南城市の施設栽培キュウリで葉が黄化症状を呈する株が認められ、沖縄県農業研究センターにおいてPCR検定を行ったところMYSVの感染が疑われた。そこで罹病葉を(独)九州沖縄農業研究センターの奥田充博士に送り病気の診断を依頼したところ、MYSVによるキュウリ黄化えそ病であることが確認された。本病の発生は沖縄県では初めてである。さらに、平成21年1月までに農業改良普及センター、農業協同組合と合同で県全域の発生調査を行ったところ、南風原町でも本病の発生が確認された。

本病は平成8年に高知県で初めて確認され、これまでに九州全県を含む22県で発生が確認されている。

#### 6 病徴・被害・伝染等

沖縄県においては、キュウリには、MYSVと同属ウイルスとして、スイカ灰白色斑紋ウイルス(WSMoV)の発生が知られている。

葉では初め葉脈が透過し、後にモザイク、えそ斑点、退緑斑点、葉脈えそ及び黄化などの症状を示すがこれらの症状は、野外発生調査の結果から品種によって異なる可能性がある。上位葉の症状は軽く、WSMoVのような激しいモザイクや奇形症状は見られない。一見するとマグネシウム欠乏症に類似している。果実にはほとんど症状が現れないが、まれにモザイク斑を生じることがある。また、圃場では、WSMoVとの混合感染株も認められるため肉眼診断のみでは、本病の正確な診断は困難である。症状が進むと減収につながる。

MYSVはミナミキイロアザミウマにより媒介される。幼虫時に罹病植物を吸汁することで保毒する。一度ウイルスを獲得すると終生伝搬能力を持つが、経卵伝染はしない。汁液伝染能力は低く、作業管理により伝染する可能性は、きわめて低い。土壌伝染、種子伝染はしない。

他県では、本病はキュウリの他にメロン、スイカでの自然感染が確認されている。

## 7 防除対策

- (1) 施設の開口部は0.8mm以下の目合いのネットを用い、出入口は二重カーテンにする。近紫外線カットフィルムを用いてミナミキイロアザミウマの侵入を防ぐ。
- (2) 感染の疑われる苗は定植しない。
- (3) 定植時にミナミキイロアザミウマ・アザミウマ類に登録のある粒剤を施用する。
- (4) 発病株は伝染源となるので、直ちに抜き取りビニール袋に入れるなどして圃場外へ持ち出す。
- (5) ミナミキイロアザミウマの発生を防ぐため、施設内外の除草を行う。
- (6) 青色粘着トラップを設置し、ミナミキイロアザミウマの早期発見に努める。
- (7) 薬剤抵抗性の発達を避けるため同系統薬剤は連用せず、作用機作の異なる薬剤のローテーション散布を行う。
- (8) 栽培終了後は薬剤散布を行った上で施設を10日以上密閉処理を行い、ミナミキイロアザミウマを死滅させ施設外への分散を避ける。



えそ斑点症状



黄化症状



葉脈周辺のえそ症状



ミナミキイロアザミウマ

---

詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい

:TEL: 098-886-3880, 098-886-0227

:アドレス: <http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>